

〈広報〉  
第6号  
平成24年  
6月15日

# 青山小学校区 コミ協だより

Comi-Kyo-DAYORI in Aoyama elementary school district

## 平成二十四年度 青山コミュニティハウス管理運営委員会 「青山まちづくりセンター」宣言



青山コミュニティハウス管理運営委員会の平成二十四年度総会が四月十三日開かれ、浦山・有明地区の自治会長、商店会長ら構成員二十六人が出席、新年度役員承認の後、予算と事業計画を決めました。

村川会長があいさつし、「青山まちづくりセンター」の看板をハウスと並べて玄関正面に掲示したことを報告、次いで来賓の西区役所・市川孝幸課長が本ハウスについて浦山、有明エリアの町

づくりの拠点施設としての位置付けを表明、行政と連携した市政参加の町づくりを呼びかけました。

同ハウスは昨年の東日本大震災発生後、四月から五月にかけ、利用者の協力を得て夜間休館として節電対策に取り組みました。年次的に進めているハウスの施設整備については事務所内の一部模様替えのほか、パソコンの増設、文書整理棚の設置など所内環境の整備改善を実施しました。

新役員には副会長に藤井秀子、会計理事に高橋恒夫、理事に金沢由貴子、金子昌司各氏が就任しました。

## 祝 「セキヤ分水」花文字で演出

祝  
関屋分水路  
40年

みずみずしい新緑の中、西区関屋分水路の堤で、5月26日、花文字の植栽作業が青山小学校区コミュニティ協議会主催で行われました。西区の泉和久新区長も顔を見せ、地区住民約200人が参加、花文字の手植え作業に汗をかきました。

川辺の草刈り後、花文字植え付け作業に取り組み、ピンクや白のペゴニア、青いサルビアの花々を組み合わせ、「西区」「セキヤ分水」の花文字と海と夕日をイメージした新潟のシンボルマークの花壇を演出しました。1972(昭和47)年に分水が完成して、今年は節目の40周年、セキヤ分水につなげて赤いペゴニアで「40年」の花文字を新たに制作、分水路40年を祝いました。

参加者は、作業後海沿いの青海浜公園へ移動し、豚汁が振る舞われ持参したおにぎりで昼食会を開き、さわやかな五月晴れの下、和やかに交流しました。



## 平成二十四年度 管理運営委員会役員

役職	氏名	所属
会長	村川 順三	利用者会
副会長	佐藤 孝	浦山5区
副会長	藤井 秀子	利用者会
会計理事	高橋 恒夫	利用者会
理事	古川 久義	浦山3区
理事	百瀬 光治	浦山4区
理事	石附 七司	浦山6区
理事	平賀 巳代治	リバーハイソ関分
理事	相馬 哲	関屋堀割町
理事	金沢 由貴子	松美台第1
理事	山田 征夫	松美台第2
理事	保苺 隆義	浦山商店会
理事	金子 昌司	西有明町第2
理事	田嶋 豊信	虹の根
監事	佐竹 和夫	サンシャイン青山

## 「コミ協だより」 本号から年三回発行

コミ協だよりは本年度(平成二十四年六月発行)から年三回の編集・発行になります。平成十九年、新潟市の政令指定都市誕生に伴い、青山小学校区コミュニティ協議会が発足、地区内の文化・スポーツ・社会教育の各任意団体が同協議会に参画する連合組織をつくってコミュニティ活動を推進しています。このコミ協の広報紙として平成十九年、コミ協だよりを創刊。年一回発行してきましたが、本年度から青山コミュニティハウスの広報紙「コミュニティ青山」と合同編集となり、B4からA4判四六で発行します。

# 浦山地区

URAYAMA AREA

## 平成24年度 自治協議会総会

# 有明地区

ARIAKE AREA

### 高齢化への 取り組みと対策

### ふれあいと 助け合いの心で



浦山地区自治協議会の平成二十四年度定期総会が四月十日開かれ、新年度の役員と事業計画を決めた。総会では議長に一区自治会長の杉山義孝氏を選出、佐藤孝会長が浦山地区の高齢化の現状と独居老人の増加に触れ、安全・安心、助け合いの町づくりを呼び掛けた。近年の地震や風水害の頻発に伴い、地区の自主防災に関心が集中、地域の海抜がひと目で分かる標識看板の設置を求める提案があり、協議会として検討していくことになった。

新年度事業としては高齢化に対応した緊急医療情報連絡キットの拡充・推進、青山小学校区コミ協との連携、組織強化に取り組むことを決めた。八区の藤島真会長と中央区の五味澤正文会長が退任、新会長に八区・矢口幸夫、中央区・南文雄両氏がそれぞれ就任した。

有明地区自治協議会は、平成二十四年度総会を四月二十八日(土)張園で開催した。八自治会二十一名の出席で二十三年度事業・決算、二十四年度事業計画・予算が承認された。役員は小針松美台自治会が西山昌二さんから、岩本賢雄自治会長に、青山西自治会が阿部勝吉さんから、打越輝郎自治会長に、松美台第一自治会が佐藤美代子さんから、金沢由貴子自治会長に、ネオハイツ有明自治会が樋口由美さんから、柳沢将雄自治会長に交替した。事業計画は、前年度に引き続き、二十四年一月の有明地区高齢世帯状況調査から地域のふれあいを重視し、「友愛訪問事業」「動く市政教室」「有明地区作品展」「福祉関係者交流会」を継続実施することを決めた。

### 平成二十四年度 利用者代表懇談会

### 利用をめぐる活発に意見交換

青山コミュニティハウスの平成二十四年度利用者代表懇談会が五月七日開かれ、代表二十一人が出席、運営委の村川順三会長、佐藤孝副会長らと同ハウスの運営、利用をめぐる意見交換しました。運営委側からハウスの運営体制の変更に伴う、事務室内の一部模様替えとパソコン一台の増設、配布物の整理棚設置など施設の整備、改善に関する報告があった。

代表者からは会議室壁面に付いている警備機具ボックスの出っ張りについて、危険でけいこの支障になるとの指摘があったほか、いすの収納セットについても「高くなって積み上げるのが大変、何かいい方法は？」の声も出た。利用グループは高齢化と会員数の減少に直面しており、厳しい現状を訴える発言も多かった。新入会員歓迎の発言が多かった。



### 青山ふれあいスクール

### 大人も子供も一緒に 学び遊ぶ

平成24年度の青山小学校「子どもふれあいスクール」が5月から始まっています。水曜の放課後、土曜の午前中の週2回、児童が地区住民や学年の枠を越えて一緒に学び、遊びながら交流を深める活動です。スクールでは活動に協力、応援してくれる大人の見守りスタッフ、運営スタッフの参加登録を呼びかけています。子どもの活動を見守り、一緒に遊んでみませんか。問い合わせは青山小学校、電話(267)0433へ。

# 関屋分水四十年と花文字

新潟市西区・関屋分水左岸の堤を彩る恒例の花文字植栽作業が五月晴れの五月二十六日、地区住民約二百人が参加して行われました。今年も関屋分水開設四十年、例年の「西区」「セキヤ分水」に「40年」を加えて鮮やかに制作しました。信濃川の洪水の歴史と関屋分水開設に尽力した先人の足跡について新潟郷土史研究会員でもある浦山六区自治会長・石附七司氏に寄稿してもらいました。



関屋分水と花文字作業に集まった参加者

## 関屋分水路の歴史

文・石附七司 (浦山六区自治会長)

信濃川は、長野、埼玉、山梨県境の甲武信岳に源を発し、千曲川として流下し新潟県に入り信濃川と改め越後平野を縦断し日本海に注ぐ。その総延長は三六七キロメートルで日本一の大河である。この大河もいったん水量を増すと、各地に洪水をおこし多大な被害をもたらした。

信濃川は、各地で破堤しており、その主なものは明治二十九年七月二十二日(一八六九)横田さき、大正六年十月二日(一九一七)曾川切れである。洪水のたびごとに関屋分水路の考えは大河津分水路と同じく、信濃川が最も海に近い関屋付近から水路を掘って海に流そうと、長い間検討されてきた。

関屋分水路が実現するまでに、幾人もの努力があった。その一人、横山太兵衛氏は、大正年代より昭和二十一年九月二十

日死去するまで、新潟一〇〇年の大計の見地より関屋分水の必要性を説き、終生分水路建設をとなえた先駆者である。また、新潟市選出の県議柏原正雄氏は、北村一男知事(昭和三十年四月)を説得して分水路提案者として、終始世論の喚起に努め、この大事業の推進力となった。

昭和三十三年三月(一九六四)国の直轄事業として関屋分水工事は認可されたが、昭和三十九年六月十六日の新潟大地震により工事が大幅に遅れることとなる。この工事は平島地先から、関屋競馬場跡地西側を通り関屋浜に至る、長さ一・八キロメートル、幅約二四〇〜二九〇メートルを開削して分水路を作るものであった。

用地は、本工事、付帯工事を合わせて五四〇平方キロメートル、建築物は病院・

商店・個人住宅・アパート等合わせて六九三戸、海面漁業補償等、買収費、補償費、合わせて四十九億二〇〇万円を要した。約八年半の歳月と総事業費一九〇億円、掘った土量は約四〇〇万立方メートル、労力は約六十万人とされ、昭和四十七年(一九七二)八月十日、弧を描きながら日本海へ向かった。

昭和五十三年六月二十六日、信濃川下流部において戦後最大の出水に見舞われた。流域の平均雨量は二日間で三二四ミリに達し、関屋分水がなければ、全量毎秒二、二五〇立方メートルが下流に流入し、新潟市街は全域にわたり浸水し、その被害額は関屋分水路事業の一九〇億円を上回る想定だった。

## 青山小学校区 コミュニティ協議会 平成24年度 定期総会

平成24年6月10日(日)

青山小学校区コミュニティ協議会(村川順三会長)の平成24年度定期総会が6月10日開かれ、新年度の事業計画を決め、地域のコミュニティ活動の一体化推進について確認した後、秋の文化祭、有明ふれあい夏まつり、浦山・有明両地区の防災訓練、信濃川クリーン作戦などの実施計画を決めた。本年度から広報紙「コミ協だより」の年3回発行を決め、役員改選では若山義男事務局長が退任、後任に高橋恒夫氏が就任した。監事は阿部勝吉氏の後任に打越輝郎氏を選出した。



ケヤキと満開のツツジと会津八一歌碑(分水左岸)

# 浦山地区 URAYAMA AREA

## 高台地区に海拔標示を

浦山地区自主防災会（佐藤孝防災本部長）は平成二十四年度定期総会を五月十二日、青山コミハウスで開き、本年度第六回防災訓練を九月三十日（日）に実施することを決めた。東北大地震の教訓を生かして震度六強の地震と津波災害を想定して実施する。津波災害に備えて「高台に逃げる」を合い言葉に浦山、有明両地区の各地点に海拔標示の目印となる看板設置を検討することを決めた。

九月の防災訓練では地震発生に伴う震動を体感する起震車の出動を予定している。



# 自主防災会総会

# 有明地区 ARIAKE AREA

## 東日本大震災を見据えて

有明地区自主防災会は四月二十八日（土）自治協議会総会に引き続いて平成二十四年度総会を開催。二十三年度防災訓練実施状況（三百十四名参加 過去最多数）、決算、防災資機材在庫の報告の後、二十四年度役員、事業計画、予算がそれぞれ承認された。今年度は、有明地区自主防災会が平成十五年十月に設立され、同年十一月に第一回訓練を実施してから、十年（回）目。設立に苦

労された先輩の皆さんの思いを引継ぎ、今年度は九月三十日（日）に、各地域・青山小学校グラウンド・青山小学校体育館にて実施予定内容は、  
 ①東日本大震災の被災及び避難状況を考慮する避難訓練  
 ②水道・ガス・道路等が遮断された想定で炊き出し訓練  
 ③濃煙住宅体験訓練、消火器使用訓練、AED使用訓練

# 青山コミハウスサークル紹介



## 着物教室「藤の会」

着付け教室「着付藤の会」は昨年五月から開講いたしました。地域の方が気楽に学べる『きもの基礎講座』です。ご都合に合わせてゆつり学ぶことができます。半衿の付け方から親切丁寧に指導しますので、初心者の方もゆつり楽しく学んでいただけます。現在は七名の会員の皆様と楽しく勉強しています。タンスの中にねむっている、『きもの』を虫干しするような気持ちで気楽に参加してみませんか？  
 教室受講風景の見学もできます。持ち物など詳しいことはご質問やお問い合わせください。

- 毎月第2・4 月曜日 午後10時から
- 毎月第2・4 火曜日 午後1時からと3時から
- 『ゆかた講座』3回コースの受講者を募集します。
- 日時 6月26日（火）7月10日（火）24日（火）午後1時からと3時から
- お問い合わせ申込み ☎ 090-5343-1944 遠藤まで



## ダンス教室「Charm」

四月から生まれ育った青山で、小学生を対象にスタート致しました。中学校の授業にダンスが導入されましたが、苦手意識なく楽しく取り組めるように、また全くダンス未経験の児童でも無理なく出来るよう丁寧な指導を心がけています。  
 年に何回か発表会やリクリエーション会等も設けていますので、お友達も増え、集団行動のなかでの協調性なども身につけていくことと思います。ダンス大好き、または興味あるお子さん、是非お待ちしております。

- 毎週月・水曜 午後6時～午後7時
- お問い合わせ ☎ 090-5558-2300（樋口）



## 文化祭の日程が変更へ

秋の文化祭の日程が平成24年10月12日（金）～14日（日）に変更になります。4月のハウスの管理運営委総会で同10月19日（金）～21日（日）の会期を決めましたが、その後、県知事選が10月21日に実施されることになり、一週間繰り上げ、12～13日作品展、14日芸能発表会の日程で開催します。